

平成30年度小学校外国語活動の指導の重点

【本県の課題】

- 学校総体としての校内研修等の充実（H29教育指導の反省から）
 - ・外国語活動等に関する研究授業を実施した学校の割合 78%
- 平成32年度からの新学習指導要領全面実施に向けた、教員の指導力・英語力向上の取組の強化

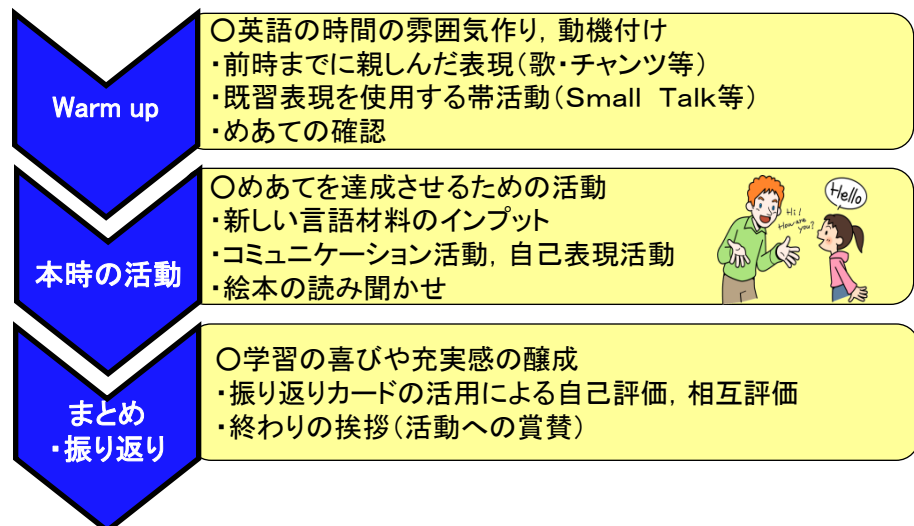
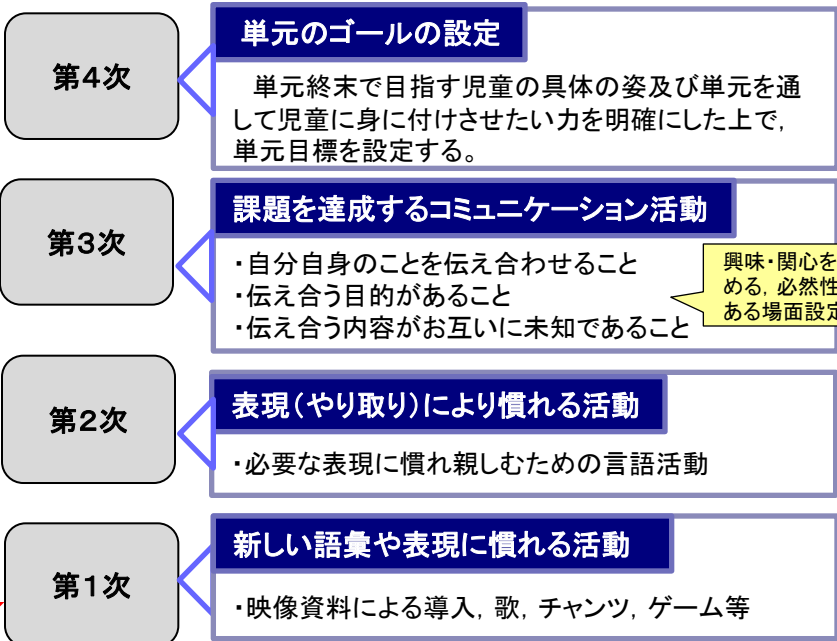
【指導の重点】

- 1単元を通じた授業設計
- コミュニケーション活動の充実
- 小中連携の一層の充実
- 学校総体としての校内研修等の充実
- 1時間の授業パターンの確立

【授業でこれから大切にしてほしいこと】(1単元を通じた授業設計)

【具体的な指導例】(1時間の授業パターン)

バックワードデザイン



※「何のために」「どのような活動を」「どのような方法、順序で」指導していくかを明確にした上で、指導する。

【高学年の「読むこと」「書くこと」の指導について】

音声で十分慣れ親しんだ語句や基本的な表現について、目的意識をもって

- 〈読むこと〉
内容を推測しながら読み、意味が分かるようにする。
- 〈書くこと〉
書き写すことができるようにする。

◆新学習指導要領の趣旨を踏まえて取り組むこと

- 学校総体としての校内研修等の充実
 - ・授業研究会の実施(年間2回程度)
 - ・小学校外国語活動・外国語研修ガイドブックの活用
- 小中連携の一層の充実
 - ・学習内容や指導方法、及び教材・教具等の連携
- コミュニケーション活動の充実
 - ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動を設定する。(「聞くこと」中心の活動から、段階的に「話すこと」へ)
- Small Talkの実施(高学年)
 - ・既習事項を繰り返し使用できる機会を設定し、その定着を図る。
 - ・対話を続けるための基本的な表現の定着を図る。